

(3) 1年間の生活活動

(a) インターネット

ア 利用者数・利用者率

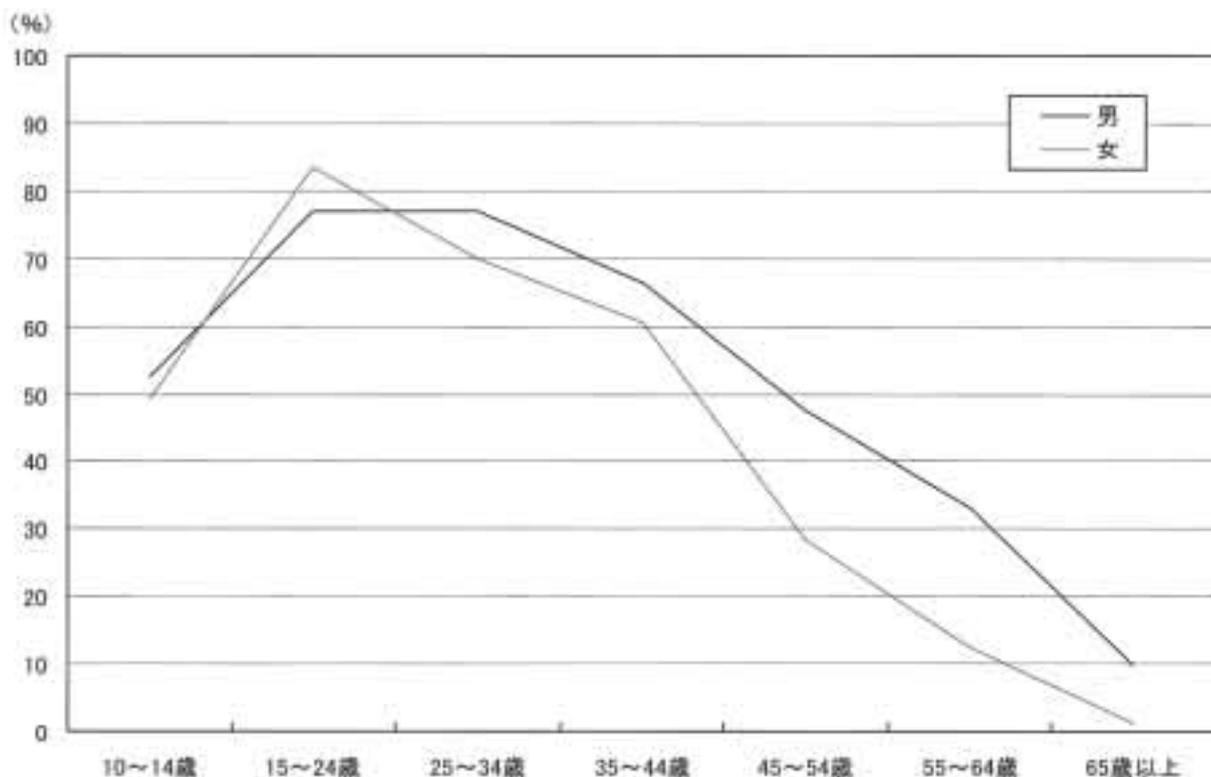
過去1年間に自由時間のほか、仕事や学業なども含めて「インターネット」を利用した人は10歳以上の県民で約1,214千人、利用者率は45.7%となっている。このうち、男性の利用者数は681千人（利用者率51.6%）、女性の利用者数は533千人（同39.9%）で、利用者率は男性の方が女性より11.7ポイント高くなっている。

なお、全国の利用者率は46.4%であり、全国に比して0.7ポイント下回っている。男女別では全国の利用者率が男性51.5%、女性41.5%となっており、男性は全国の利用者率を0.1ポイント上回っているが、女性は1.6ポイント低くなっている。

利用者率を年齢階級別にみると、15歳～24歳では女性の方が男性より高くなっているが、その他の年齢層では男性の方が高くなっている。

(図-8)

図-8 男女、年齢階級別「インターネット」の利用者率（10歳以上） —茨城県—



イ 利用の形態

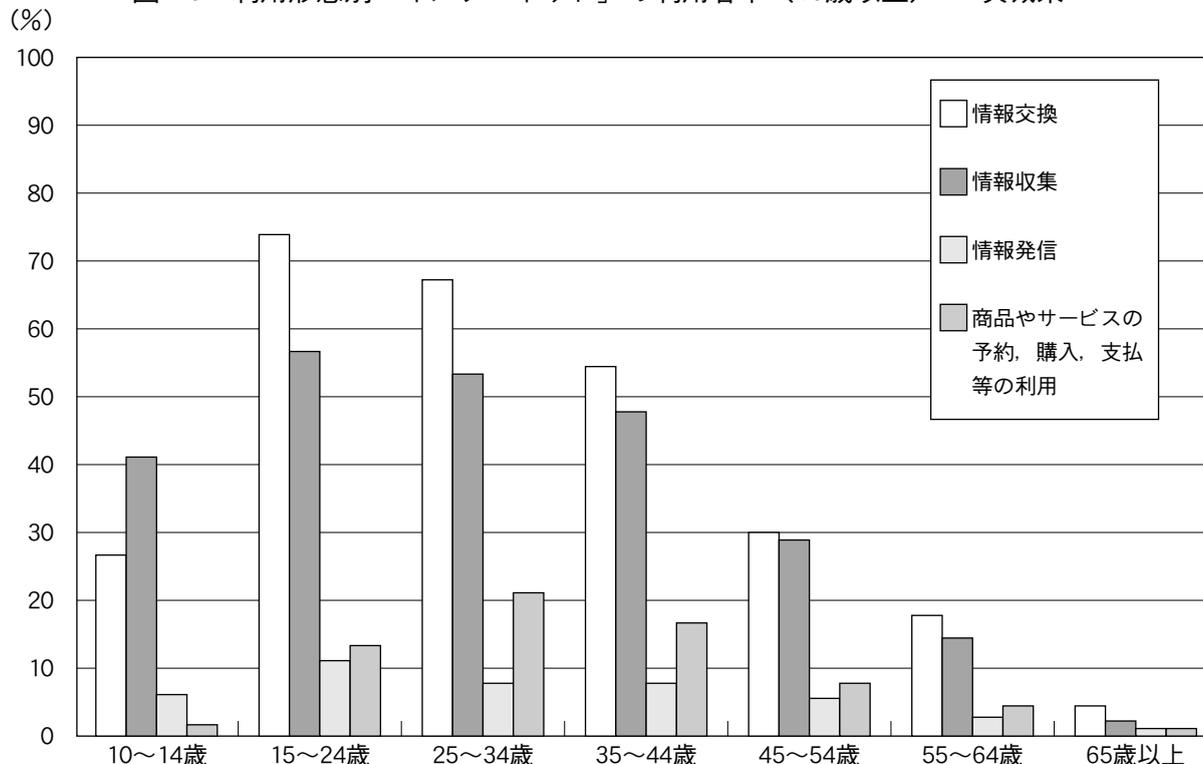
「インターネット」の利用者率を利用形態別にみると、電子メールやチャットでの会話、またインターネット電話などの「情報交換」に利用した人が1,016千人（利用者率38.2%）、ホームページの閲覧や検索などの「情報収集」に利用した人が867千人（同32.6%）、ホームページの開設や内容の更新などの「情報発信」に利用した人が149千人（同5.6%）となっている。また、インターネットショッピングを行ったり、インターネットを利用して銀行振込や株・チケットを購入するといった「商品やサービスの予約、購入、支払い等」

に利用した人は 257 千人（同 9.7%）となっている。

これを年齢別にみると、10～14 歳では「情報収集」に利用する人が 40.3%で多くなっており、15～24 歳では「情報交換」に利用する人が多く 72.8%となっている。

（図－9）

図－9 利用形態別「インターネット」の利用者率（10歳以上）－茨城県－



ウ 平均行動日数

「インターネット」の年間の利用頻度を平均行動日数にみると、利用者うち「情報交換」では 174.7 日となっており、「情報収集」は 115.6 日、「情報発信」は 94.0 日間となっている。

これを男女別にみると、「情報交換」では男性が 178.7 日、女性が 169.8 日、「情報収集」では男性が 135.9 日、女性が 86.1 日、「情報発信」では男性が 105.8 日、女性が 69.9 日といずれも男性の方が女性より日数が多くなっている。

エ 携帯電話・PHS 及びパソコンの利用状況

ふだん自分の用途で「情報関連通信機器」を使用している 10 歳以上の県民は 1,604 人（利用者率 60.4%）で、「携帯電話・PHS」を使用している人は 1,414 千人（利用者率 53.2%）、「パソコン」を使用している人は 836 千人（31.5%）であった。

これを年齢階級別にみると、「携帯電話・PHS」では 15～24 歳で 86.9%と最も高くなっており、また「パソコン」では 25～34 歳が 49.5%で最も高くなっている。「携帯電話・PHS」の使用は 10～14 歳を除くすべての年齢層で「パソコン」の使用を上回っている。

これを男女別にみると、「携帯電話・PHS」では女性の 15～24 歳が 89.4%と最も高くなっており、10～24 歳代では女性が男性を上回っている。また、「パソコン」では男性の

35～44歳が53.2%と最も高くなっており、すべての年代で男性が女性を上回っている。

(図-10) (図-11)

図-10 男女、年齢階級別「携帯電話・PHS」の利用者率（10歳以上） -茨城県-

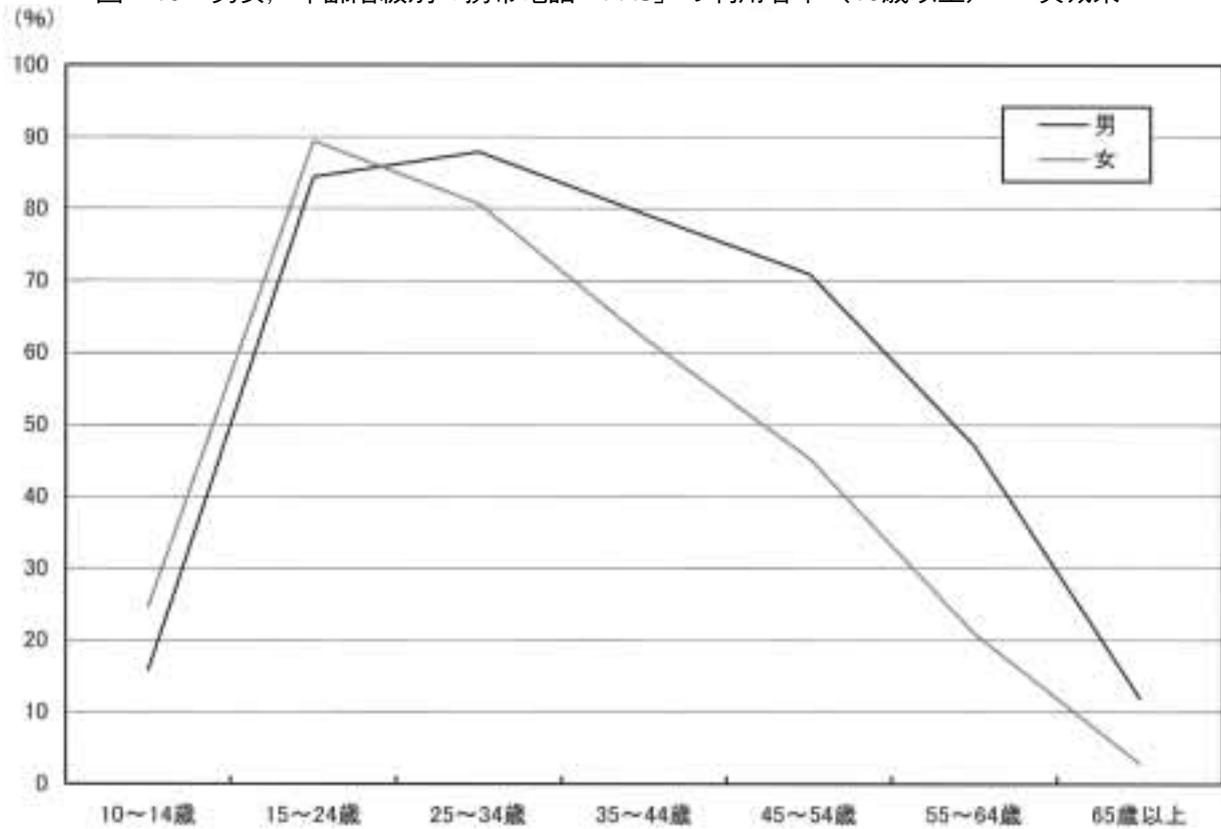
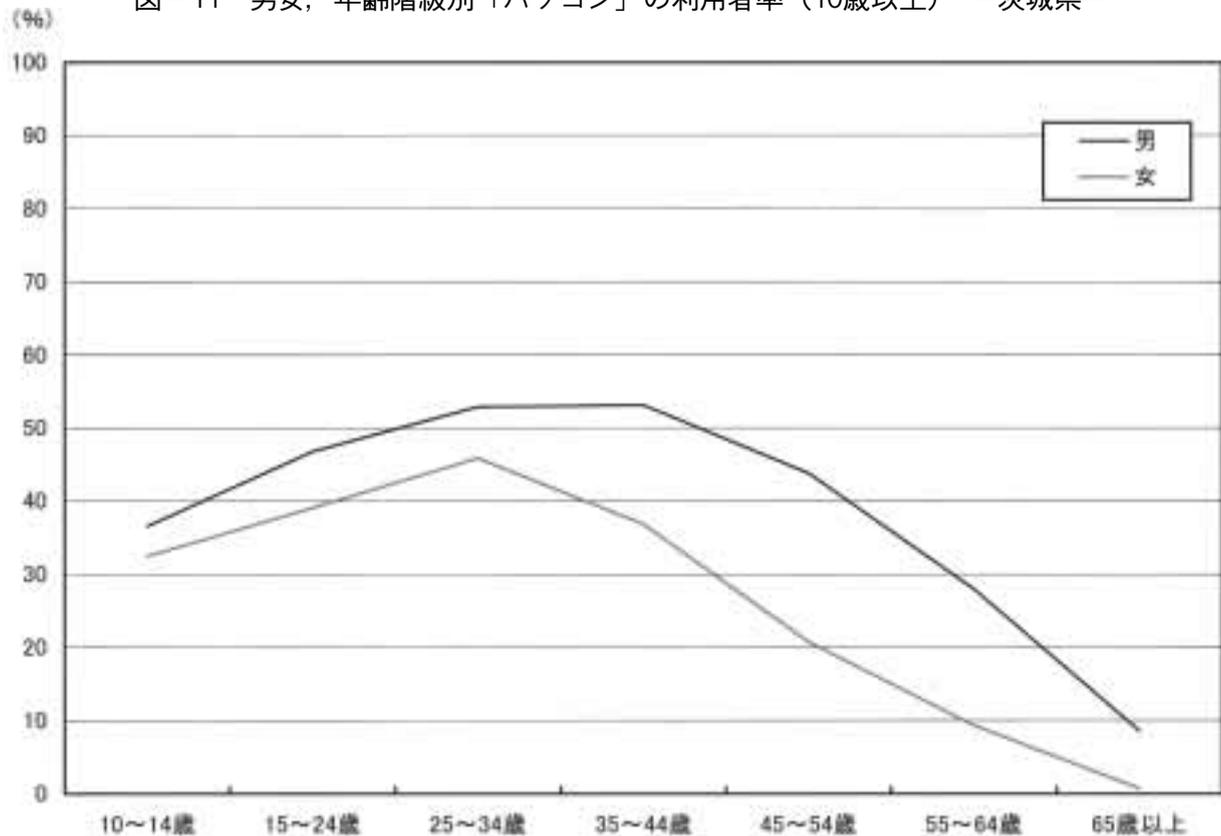


図-11 男女、年齢階級別「パソコン」の利用者率（10歳以上） -茨城県-



(b) ボランティア活動

ア 行動者数・行動者率

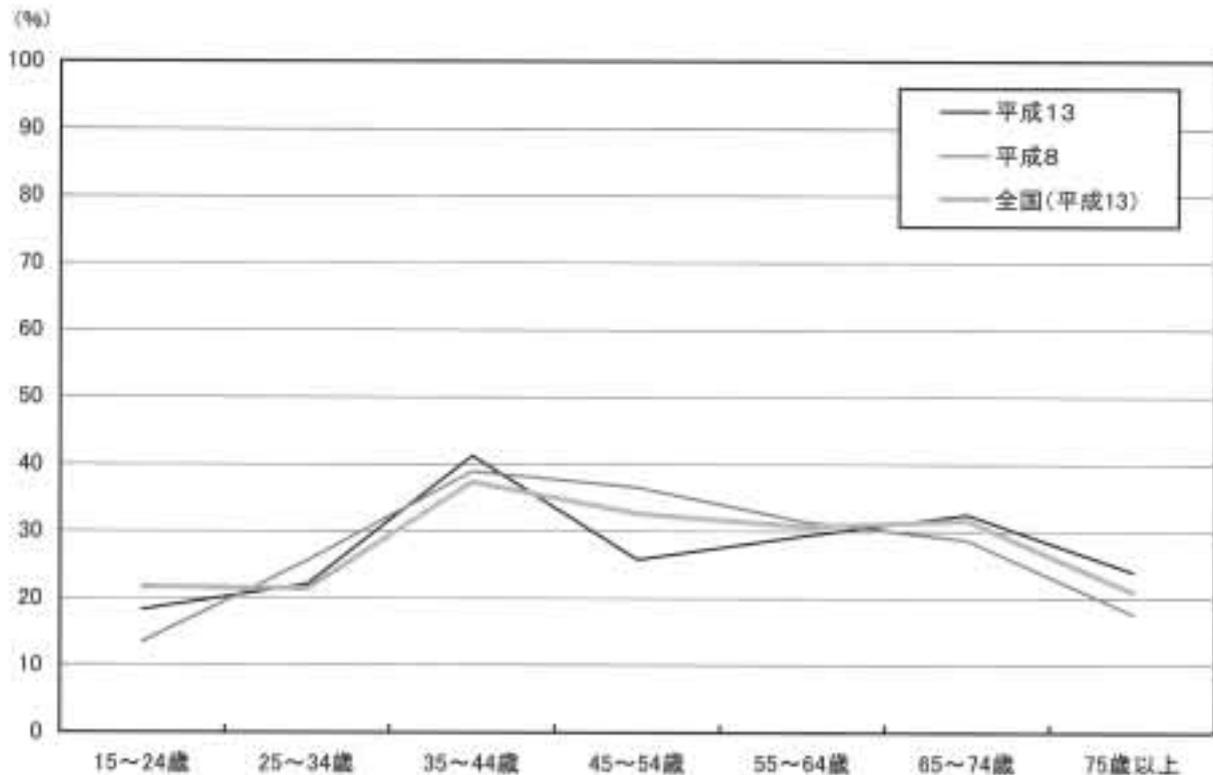
過去1年間に何らかの「ボランティア活動」を行った10歳以上の県民は約751千人で、行動者率は28.3%となっている。このうち男性は371千人(行動者率28.1%)、女性は380千人(同28.4%)であり、女性の方がやや高くなっている。これを平成8年と比較すると0.1ポイント上昇しているが、全国の平均行動者率は28.9%であり、全国と比較すると0.6ポイント低くなっている。

「ボランティア活動」の行動者率を年齢階級別(15歳以上)で見ると、35～44歳が41.2%で一番高くなっている。平成8年と比較すると、全国ではすべての年齢層で上昇しているが、本県の場合各年齢層での較差が大きく、75歳以上では6.3ポイント高く、45～54歳では10.7ポイント低くなっている。

男女別で行動者率が高いのは35～44歳の女性42.0%で、次いで同年代の男性が40.6%となっている。「ボランティア活動」の行動者率が一番高い35～44歳では、男性の場合「まちづくりのための活動」が18.4%、女性では「子供を対象とした活動」が23.2%となっている。

(図-12)

図-12 年齢階級別「ボランティア活動」の行動者率(15歳以上) -茨城県-

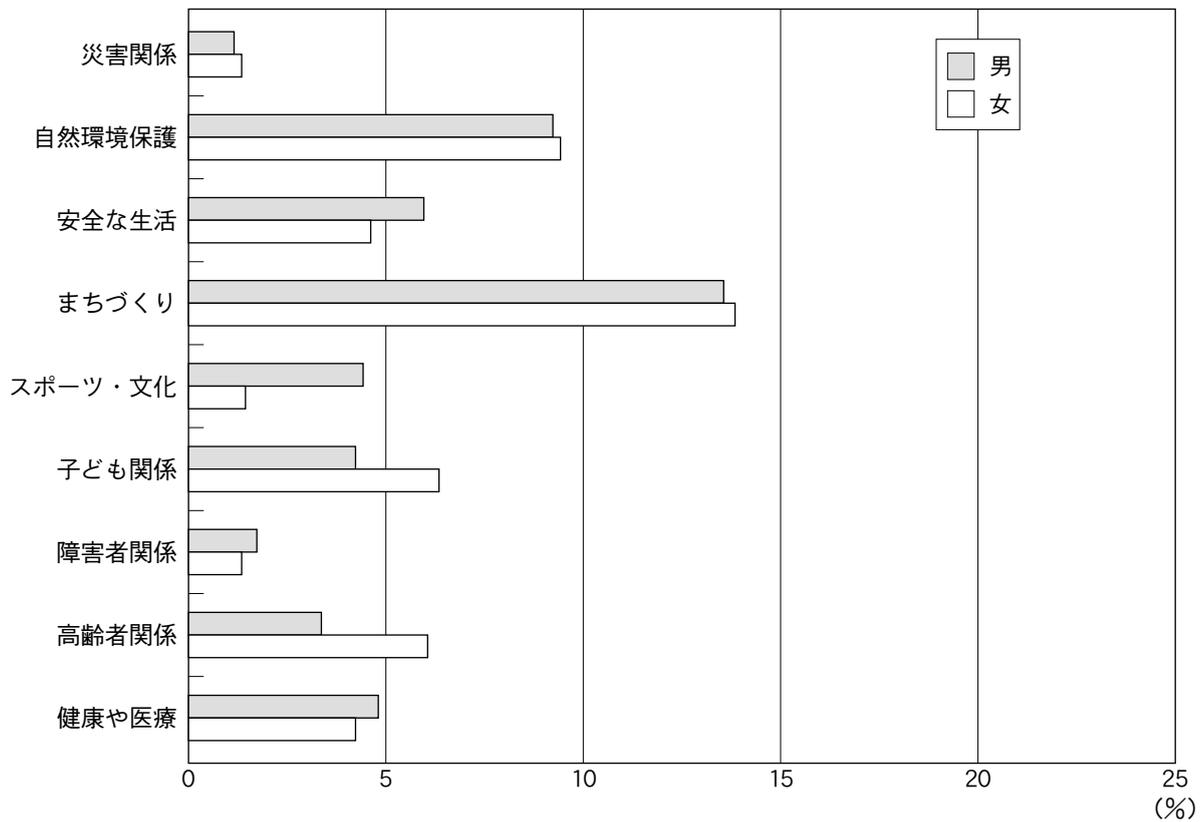


イ 種類別行動者率

「ボランティア活動」の種類別にみると（10歳以上），男女ともに「まちづくりのための活動」（行動者率男性 13.6%，女性 13.9%）の行動者率が最も高くなっており，次いで「自然や環境を守るための活動」（男性 9.2%，女性 9.4%）が高くなっている。

（図－13）

図－13 男女、「ボランティア活動」の種類別行動者率（10歳以上）－茨城県－



(c) 旅行・行楽

ア 行動者数・行動者率

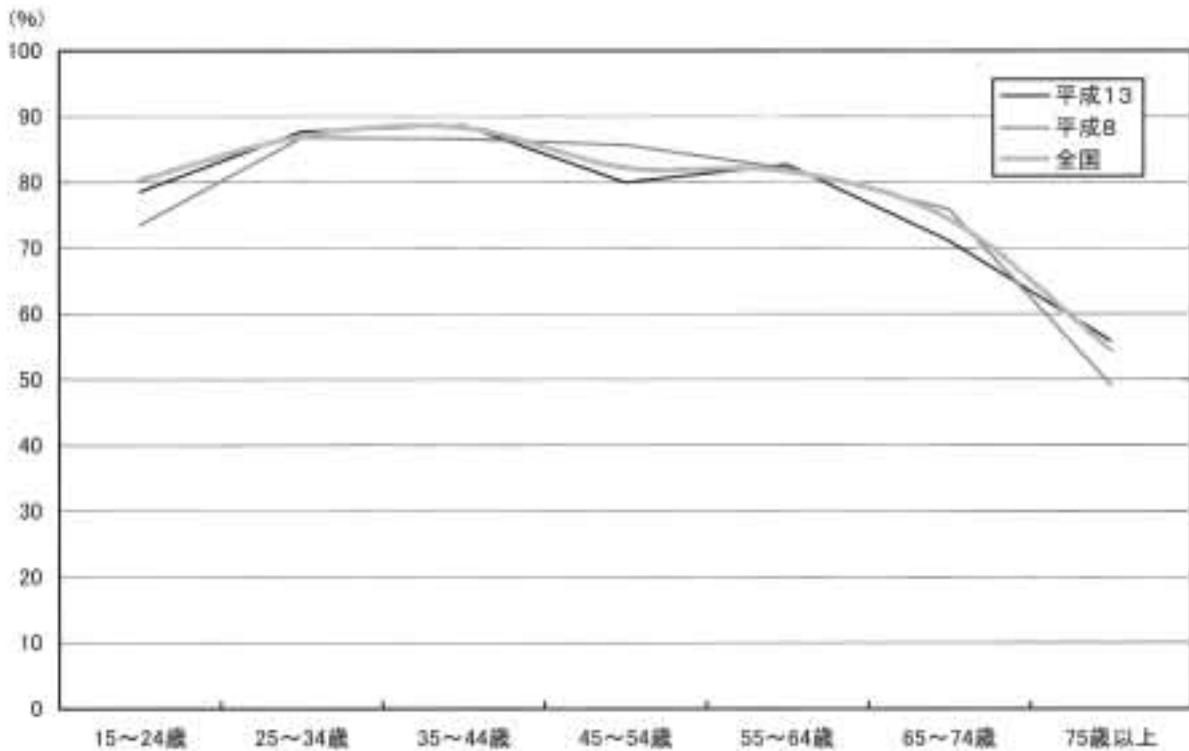
過去1年間に自由時間のほか仕事や学業なども含めた「旅行・行楽」を行った10歳以上の県民は2,133千人で、行動者率は80.3%と県民の大半が何らかの形で「旅行・行楽」を行っている。このうち男性は1,045千人(行動者率79.2%)、女性は1,088千人(同81.4%)で、女性がやや男性を上回っている。

年齢階級別(15歳以上)にみると、男性では35～44歳が90.3%と最も高く、一方女性では、25～34歳が91.7%で男女を通じて最も高い。

これを平成8年と比べると、全国的には20歳代以上の各年齢層で行動者率が低下しているが、本県においては45～54歳、65～74歳で低下している。このうち45～54歳の低下幅が最も大きく、5.7ポイント低下している。

(図-14)

図-14 年齢階級別「旅行・行楽」の行動者率(15歳以上) —茨城県—



イ 種類別行動者率

「旅行・行楽」の行動者率を種類別にみると(10歳以上)、「行楽(日帰り)」が64.7%、国内と海外を含めた「旅行(1泊2日以上)」が66.3%となっている。「旅行」のうち国内では「観光旅行」が55.7%と高く、次いで「帰省・訪問等の旅行」が20.3%、「業務出張・研修・その他」が15.9%となっている。また、海外では「観光旅行」が9.5%、「業務出張・研修・その他」が2.9%となっている。平成8年と比較すると、「国内観光旅行」の行動者率は0.2ポイント低下しているが、「海外観光旅行」は平成8年に比べると0.1ポイント上昇している。

これを男女別にみると、「行楽(日帰り)」では男性は62.6%、女性は66.7%と、女性が

男性を上回っており、「旅行（1泊2日以上）」では男性が67.2%、女性は65.5%と、男性が女性を上回っている。

「旅行（1泊2日以上）」のうち、「国内観光旅行」の行動者数では男性は55.6%、女性は55.8%とほぼ同程度であり、また「海外観光旅行」についても男性・女性ともに9.5%となっている。これを年齢階層別（15歳以上）にみると、「国内観光旅行」では25～34歳女性が64.5%と最も高く、次いで55～64歳男性が63.5%になっており、「海外観光旅行」では55～64歳男性が17.5%と最も高く、次いで25～34歳女性が16.9%となっている。

(図-15) (図-16)

図-15 男女、「旅行・行楽」の種類別行動者率（10歳以上） -茨城県-

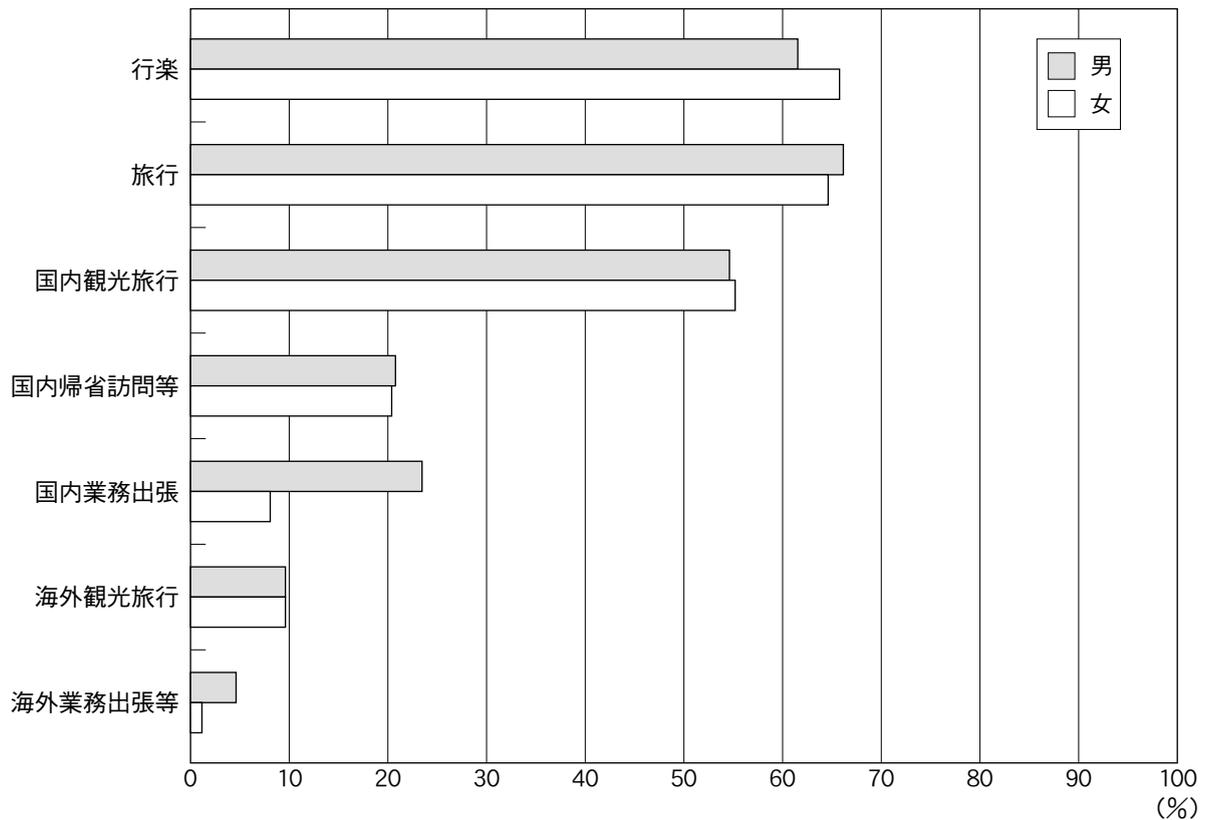
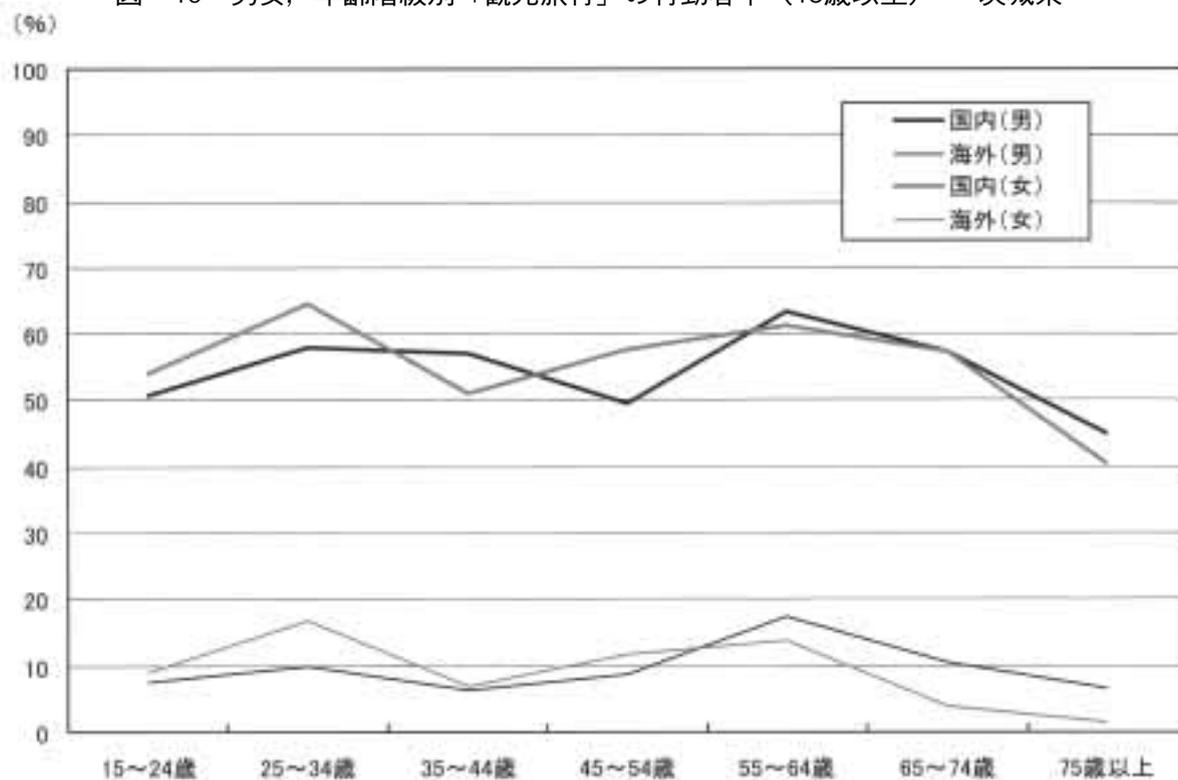


図-16 男女、年齢階級別「観光旅行」の行動者率（15歳以上） -茨城県-



(d) 学習・研究

ア 行動者数・行動者率

過去1年間に何らかの「学習・研究（社会人が仕事として行うものや、学生が学業として行うものを除く）」を行った10歳以上の県民は899千人、行動者率は33.8%で、全国の行動者率（36.2%）と比較すると2.4ポイント低くなっている。これを男女別にみると、男性は34.8%、女性は32.9%で男性のほうが1.9ポイント高くなっている。

年齢階級別（15歳以上）に行動者率をみると、15～24歳が47.9%で最も高くなっている。男女別にみると、男性では15～24歳が46.0%で最も高く、次いで25～34歳（41.5%）、35～44歳（38.7%）と年齢が高くなるに従い低くなっている。女性でも15～24歳が49.9%で最も高くなっている。また、同年齢層の行動者率を男女別に比較してみると、15～24歳及び35～44歳では女性が男性を上回っており、それ以外の年齢層では男性が女性を上回っている。

イ 種類別行動者率

「学習・研究」の行動者率を種類別にみると（10歳以上）、男女ともに「パソコン等の情報処理」が最も高く、男性で18.0%、女性で12.2%となっている。それ以外の種類では、男性が「英語」（12.4%）「人文・社会・自然科学」（11.4%）、女性では「家政・家事」（11.9%）「英語」（9.9%）の順となっている。

（図－17）

ウ 年齢階級別行動者率

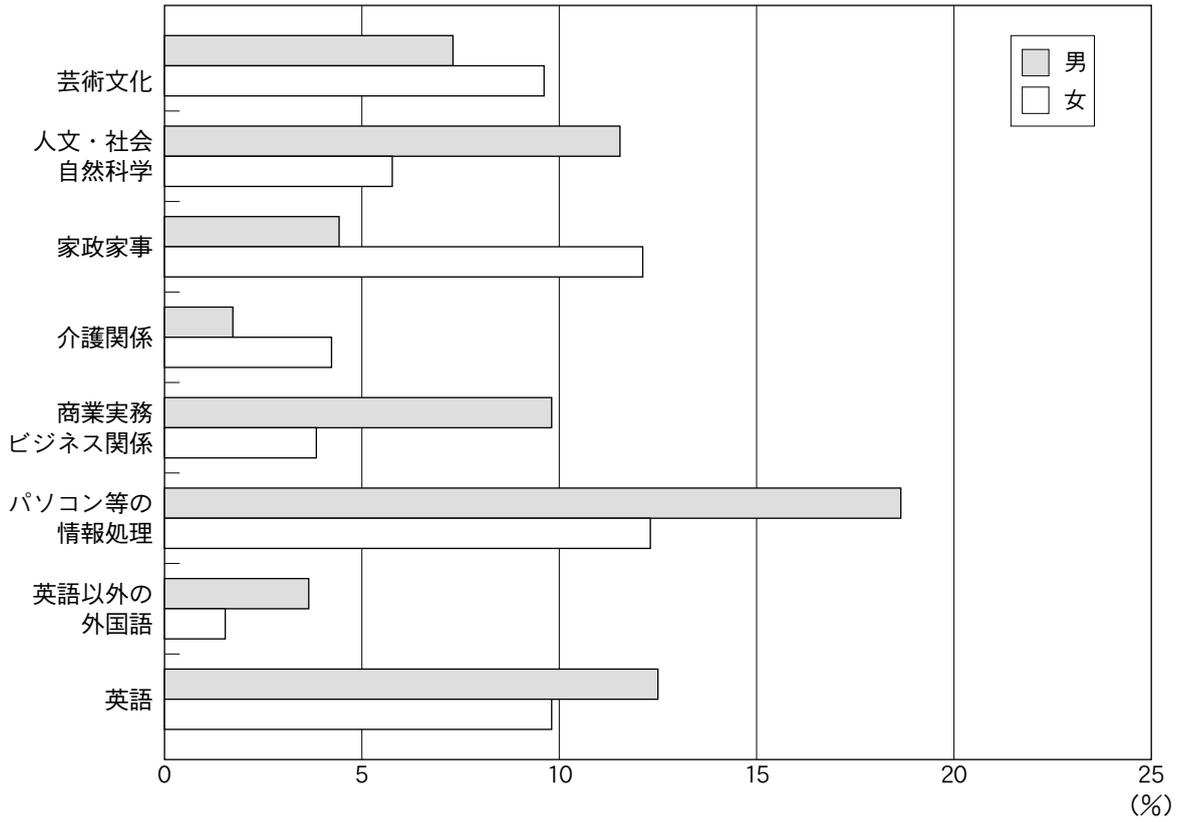
次に年齢階級別（15歳以上）の行動者率をみると、「英語」は在学率の高い15～24歳で男性（27.4%）、女性（25.5%）と他の年齢層に比べてきわめて高くなっている。

「パソコン等の情報処理」では男性は15～54歳の各年齢層で、女性は15～24歳及び35～44歳の各年齢層で20%を上回っている。

「商業実務・ビジネス関係」では男性の45～55歳が17.7%で最も高く、次いで35～44歳が14.7%となっている。

「介護関係」では女性の65～74歳が8.4%、35～44歳が7.3%で高くなっているが、男性では0.9～1.9%と低い割合になっている。

図-17 男女、「学習・研究」の種類別行動者率（10歳以上） -茨城県-



(e) スポーツ

ア 行動者率

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った10歳以上の県民は約1,863千人で、行動者率は70.1%となっている。このうち、男性の行動者数は994千人（行動者率75.3%）、女性の行動者数は869千人（同65.0%）となっており、男性の行動者率が女性を大きく上回っている。

年齢階級別（15歳以上）にみると、男女とも若年層ほど高い傾向にあり、男性では15～44歳までの各年齢層で80%を超え、女性も同年齢層で70%を超えている。年齢が高くなるほど行動者率は低下する傾向にあり、75歳以上になると男性51.4%、女性35.5%になっている。

イ 種類別行動者率

「スポーツ」の行動者率を種類別にみると（10歳以上）、「運動としての散歩・軽い体操」が42.7%で最も高く、以下「ボウリング」（20.0%）、「水泳」（16.3%）、「ジョギング・マラソン」（9.1%）の順となっている。

男性の行動者率が女性を上回っているのは、「釣り」（男性21.6%、女性3.5% 格差18.1ポイント）、「ゴルフ」（男性19.9%、女性4.2% 較差15.7ポイント）、「野球」（男性18.0%、女性2.9% 較差15.1ポイント）のほか「ソフトボール」、「サッカー」などである。

逆に女性の行動者率が男性を上回っているのは、「運動としての散歩・軽い体操」（男性39.6%、女性45.8% 較差6.2ポイント）、「バドミントン」（男性6.3%、女性9.6% 較差3.3ポイント）、「バレーボール」（男性5.1%、女性7.5% 較差2.4ポイント）となっている。

また、「ゲートボール」（男女間較差0.6ポイント）、「テニス」（同1.2ポイント）、「卓球」（同2.0ポイント）については男女の差があまり見られなかった。

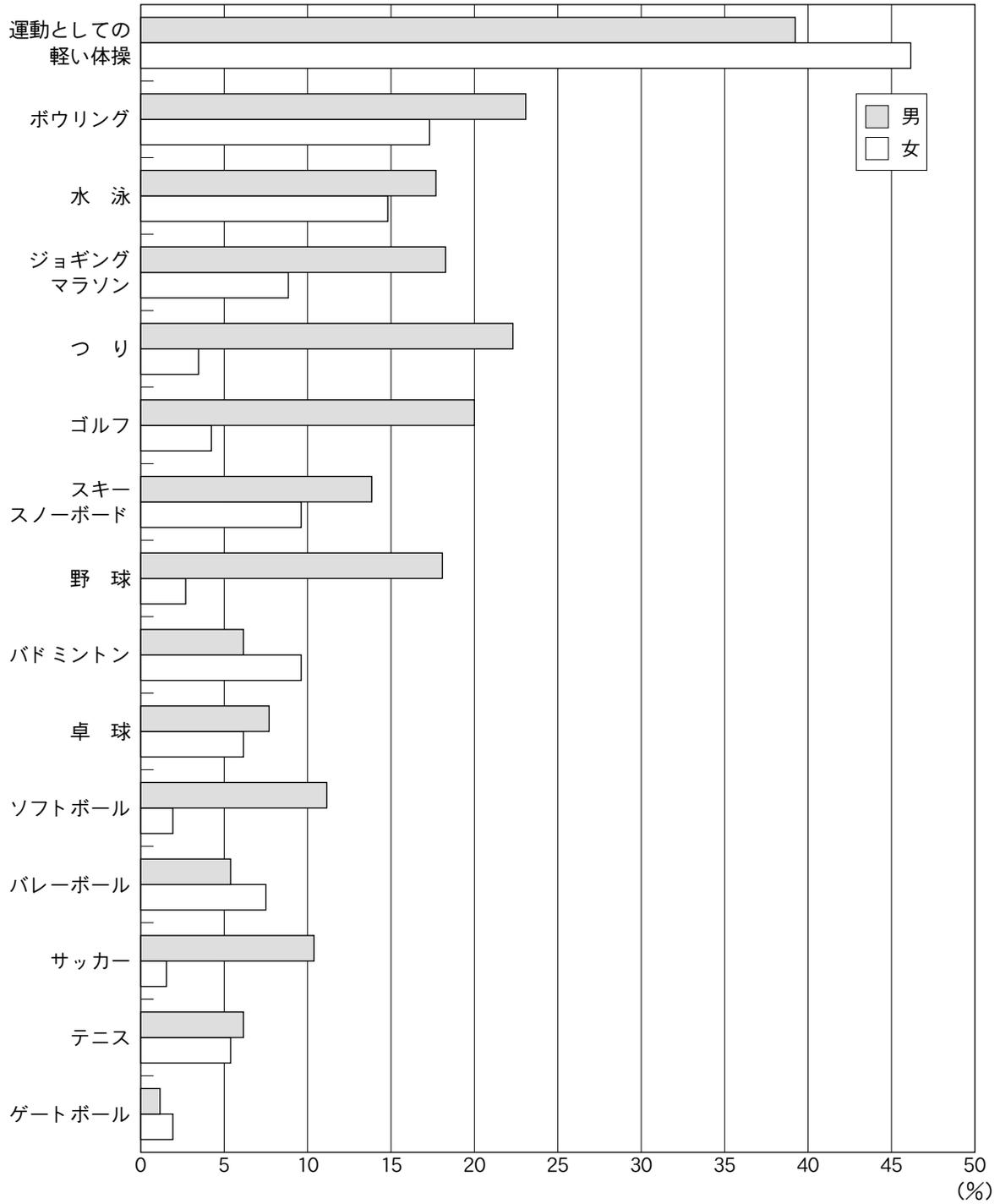
(図-18)

ウ 年齢階級別行動者率

「スポーツ」の種類別行動者率を年齢階級別（15歳以上）にみると、男性では35歳以上で「運動としての散歩・軽い体操」が最も高く、45歳以上では40%を超えている。15～34歳では「ボウリング」の行動者率が高く、また45～64歳ではゴルフの行動者率が第2位となっている。また、25歳以上では各年齢階級を通じて「釣り」も上位となっている。75歳以上では「ゲートボール」が第2位となっている。

一方、女性では各年齢階級を通じて「運動としての散歩・軽い体操」が最も高く、15～74歳で40%を超えている。15～54歳では「ボウリング」が、65歳以上では「ゲートボール」が第2位となっている。

図-18 男女、「スポーツ」の種類別行動者率（10歳以上） —茨城県—



(f) 趣味・娯楽

ア 行動者数・行動者率

過去1年間に「趣味・娯楽」を行った10歳以上の県民は2,235千人で、行動者率は84.1%と県民の大半が何らかの形で「趣味・娯楽」を行っている。このうち男性は1,129千人（行動者率85.6%）、女性は1,106千人（同82.7%）と、男性が女性を上回っている。

年齢階級別（10歳以上）にみると、10～24歳の年齢層では90%を超えており、25～64歳で80%以上、65歳以上では66.3%となっている。

「趣味・娯楽」の行動者率を種類別にみると、県民全体では、「趣味としての読書」（行動者率41.6%）が最も高く、次いで「カラオケ」（同37.0%）、「園芸・庭いじり・ガーデニング」（同35.5%）の順となっている。

男女別に行動者率をみると、女性に比べて男性の方が高い種類は「日曜大工」、「パチンコ」、「テレビゲーム（家庭で行うもの、携帯用を含む）」、「スポーツ観戦」となっている。

逆に男性に比べて女性の方が高い種類は「趣味としての料理・菓子作り」、「編み物・手芸」、「和裁・洋裁」となっている。

年齢階級別（10歳以上）の行動者率をみると、10～14歳では男女ともに「テレビゲーム」（男性92.9%、女性67.3%）が高くなっている。特に男性の場合10～34歳まで「テレビゲーム」の行動者率が最も高くなっている。45歳以上になると男女ともに「園芸・庭いじり・ガーデニング」の行動者率が最も高くなっている。また男性は45歳以上で「日曜大工」の行動者率が高く、一方女性は65歳以上で「和裁・洋裁」及び「編み物」の行動者率が高くなっている。そのほか、「趣味としての読書」や「カラオケ」は各年齢層で男女を通じて高い行動者率となっている。

(図-19-1) (図-19-2)

図-19-1 男性,「趣味・娯楽」の種類別(9種別)行動者構成比率 -茨城県-

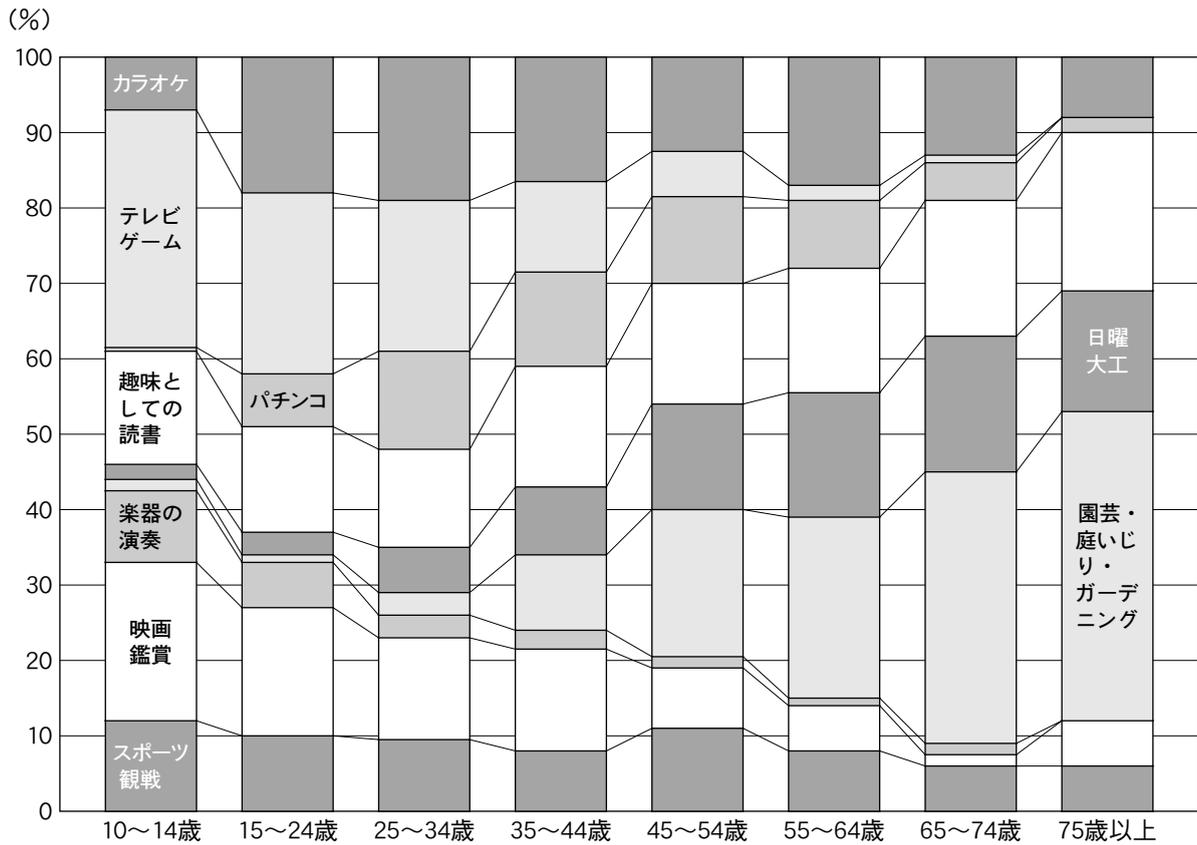


図-19-2 女性,「趣味・娯楽」の種類別(10種別)行動者構成比率 -茨城県-

